

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で関われるような、事業所独自の理念を作っている。	○	理念の徹底に努めていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室に掲示しています。ミーティング等で理念の確認を行っている。	○	理念を事務所内に掲示したり、ミーティングでも話したりしているが、記憶の中で薄らいでいくため定期的に理念の確認をしていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	季刊誌や運営推進会議などを通じて理解してもらえよう取り組んでいる。	○	運営推進会議等を利用し、ともに暮らす地域住民の一員として認知症高齢者に対する理解をもらい、認知症高齢者が安心して暮らせる地域社会を目指したい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物時には近隣の方々と挨拶を交わしている。ボランティアにも快く来てくださる。	○	近隣の方々に気軽に来ていただけるよう、積極的なコミュニケーションに努めたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、防災会に加入したりして交流に努めている。	○	運営推進会議などで地域代表の方々に協力・相談を行っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等を通じて気軽に相談していただけるよう話し合っている。介護相談・施設見学も随時対応している。	○	運営推進会議などを通じて、地域の役に立てることを相談していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回と同様各職員に自己評価に取り組んでもらい、支援内容の確認や具体的な改善に繋がっている。	○	日中の利用者の状況に添ってエレベーターの暗証番号の解除やケアプランの充実に取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われた内容は、記録を全職員で閲覧し、サービスの向上に努めている。	○	メンバーを通じ地域との関わりを増やしていけるよう働きかけている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課とは、常に相談できる環境にある。	○	市の担当課とは今後も相談できる環境の維持に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用している利用者はいないが、個々の必要性を行政機関の関係者と相談等を行っている。	○	現在行っている施設内外の人権研修の積極的な参加を継続していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し、伝達研修を行っている。スタッフの悩みなどを話しやすい環境づくりを心掛けている。	○	職員の精神的フォローをしていくよう心掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時には面接にて十分に話し合い、理解・納得していただいている。	○	利用者本人にとっての最善方法を一緒に考えている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員とで町会を作り、一週間に一度の割合で意見や不満などが言えるように話し合っている。他に意見箱も設けている。	○	町会での話し合いを今後も継続していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な季刊誌や、担当者から家族へ近況を定期的に報告している。また、変化があればその都度電話等で報告している。	○	家族の面会時にも生活の状況などを話している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に希望や意見が言えるような声掛けをし、出された意見はミーティング等で話し合い反映させている。	○	苦情窓口を設けたり、他の公共機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。また、事業所内にも掲示している。意見や苦情が言えるような環境づくりに努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見や提案を発言できるような雰囲気作りに努め、出された意見を反映させている。	○	意見が出せるような雰囲気作りを心掛けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の理解のもと必要な職員の数は調整している。	○	併設施設の職員との交流に努め、柔軟かつ即応的な人員確保ができる体制がとれている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わる場合は、細かい注意点まで引継ぎを行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	利用者の不安に対する精神的なダメージを防ぐよう努めていきたい。離職を防ぐために不安要因を改善できるよう、職員の悩みの相談などが出来るような環境づくりを継続していきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の事業所間で相互研修を行ったり、施設内外での研修の機会を設けている。	○	職員が研修に参加したいと思えるような内容の研修を厳選していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会グループホーム分科会や、大阪認知症グループホーム協議会に加入し、研修会や勉強会に参加し、また、相互訪問し意見交換を経てサービス向上に取り組んでいる。	○	施設外での研修などを大切にし、情報の交換を行いサービスに活かして生きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各職員が日々の中で、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	○	法人全体のレクリエーションや職員同士の交流会、福利厚生に積極的に行っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人内での研修会や資格取得できるようなサポート体制も取り入れている。	○	施設内外の研修を出来るだけ多く確保し充実を図っていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	常に利用者の視点、利用者の側にいる事を心掛けている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	入所時までの経過を入所相談支援経過として記録している。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		現状を維持していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	職員や他の入居者と早く馴染めるように仲介し、よい関係が築けるように配慮していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	利用者より学び・支えあって生活していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは頻繁に連絡を取り、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族と二人三脚で共に支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族がいつでも気軽に来苑できるような雰囲気作りに努めている。	○	家族との連携を大切にし利用者の現状に理解してもらえるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の人にはなかなか会えていないが、外出の支援はしている。	○	外出の機会を増やしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は常に把握し、情報を共有し、いろいろな場面で関わられるよう支援している。	○	利用者同士が協力し合える雰囲気作りを心掛けている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な家族には必要時に連絡を入れ、また、行事の案内なども行って、断ち切らない関係にしている。	○	家族等が気楽に来苑してもらえるような雰囲気作りと、職員とのコミュニケーションの調和に努力している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から一人ひとりの希望を聞き、カンファレンスから個別ケアに繋げている。	○	全職員が情報を共有していく、一体化したケアを心掛けていきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや入居後の本人の言動や家族との会話で情報を集め把握し、その情報は記録している。	○	全職員が情報を共有し、統一したケアを目指している。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の記録やカンファレンス・モニタリングにて全職員と話し合い、把握している。	○	現状を維持していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望や看護師・主治医の意見を聞き、職員の情報等にて介護計画へとつなげている。	○	家族の面会時には現状を報告し、家族の希望や利用者に合った介護計画を作成したい。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員がモニタリングやカンファレンスに参加し見直しを行い、変化や問題が生じた場合はその都度必要な関係者と話し合い、新たな計画を作成している。	○	利用者の現状に即した介護計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別日誌やチェック表に記載し、職員間で情報を共有し介護計画に活用している。	○	各利用者の気付きや変化などを記録していき、計画に活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療が必要な場合など、同法人内の多機能性を活かし訪問看護や医療との連携を取り、24時間医療連携体制をとっている。	○	利用者や家族から喜ばれるサービスの提供をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方にボランティアに来てもらったり、地域の学校で行われる音楽会やふれあい祭りに参加したり、地域の防災会に加入し避難訓練等に参加している。	○	地域との関わりや良い協力体制を継続していけるよう努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用されている利用者はいない。	○	利用者の意向や必要性があれば検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在利用している利用者はいない。	○	利用者の意向や必要性があれば検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員の利用者が同一法人クリニック医師が主治医となっている。状況により他の医療機関への受診も支援している。	○	状況に応じ主治医と家族・職員で面談を行い、病状の説明や今後の方向性などを話し合う機会を作っている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医師や家族と連携を取り受診している。	○	緊急時の受診や相談を受ける体制の構築に努めている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間医療連携体制を取っている。看護師がほぼ毎日訪問し、健康管理や異常時の発見に努めている。	○	看護師にいつでも相談でき、勉強会も行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者とは管理者が中心となって連携を取っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合等についての説明はしているが、今までに対象の利用者がいなかった。マニュアルは全職員が周知している。	○	重度化した場合はなるべく早い段階で家族・本人の意思確認を取るように取り組みたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や本人の希望があれば同法人内の主治医・訪問看護・職員との連携で対応できるようになっている。	○	ターミナルケアについての勉強会の充実に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関係者とで充分に話し合い、情報交換を行いダメージの予防に努めている。	○	体験入所や馴染みの物の持込に積極的に取り組んでいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に尊敬の念を持って対応するよう心掛けている。個人情報の取り扱いを定めて実行している。	○	ミーティングや研修等で利用者の尊厳やプライバシー保護の大切さを伝えていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人の分かる力に合わせて説明し、自己決定が出来るよう、また、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	集団生活の場と個人生活の場を認識した支援体制に努めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に添った生活を心掛けている。状況によって対応出来ないときは十分に説明を行っている。	○	訴えがあれば出来るだけ対応していけるような体制作りに努めていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望にあわせ行きつけの美容院へ行けるよう支援している。ハンドケアなどのボランティアも受け入れている。衣服も本人の意見で一緒に準備している。	○	職員自身も身だしなみやおしゃれに配慮した声掛けや話題づくりに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの出来る力に合わせ、出来る事を無理強 いせず職員と一緒にやっている。	○	利用者のレベルに合わせた役割ができるよう検討 していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たば こ等、好みのものを一人ひとりの状況に合 わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望によりノンアルコールビールなどを飲 んでいる利用者もいる。おやつや他の嗜好品を医 療的な範囲内で日常的に楽しんでいる。	○	「自由」「その人らしさ」を基本にした支援を継 続していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一 人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活 かして気持ちよく排泄できるよう支援して いる	一人ひとりの排泄パターンを記録から把握し、気 持ちよい排泄が出来るよう支援している。	○	引き続きトイレでの排泄の自立へ向けた支援を 行っていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミングに 合わせて、入浴を楽しめるように支援して いる	本人の希望により入浴している。季節ごとの変わ り湯も取り入れている。	○	継続していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況 に応じて、安心して気持ちよく休息したり 眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた支援をしている。	○	安眠のため、日中での生活の工夫を継続してい きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよ うに、一人ひとりの生活歴や力を活かした 役割、楽しみごと、気晴らしの支援をして いる	一人ひとりの出来る力を活かした役割を行って もらっている。 野球観戦・カラオケ・散歩などその人の好みに 合った支援をしている。	○	個々の趣味を活かした支援を継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った時やお花見や遠足に出かけたときなどは、財布を持ってもらい買い物の楽しさを感じてもらえるよう支援している。	○	現状を継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的な気候に配慮しながら、気分転換や運動のためにも戸外へ出かける機会を作るようにしている。	○	外出の機会を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの外出や希望により大型スーパーへの買い物の支援をしたりしている。	○	外出の機会を増やしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけてもらっている。	○	現状を維持していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問していただき、居室で家族だけで過ごされるときもあれば、ホールで過ごされるときもあり、自由にいただいている。	○	現状を維持していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を通じて理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	現状を維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の無断外出の危険性を、鍵をかけることの弊害を理解しており、行動パターンや精神状態の把握に努めている。	○	現状を維持していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら所在や様子を把握し、安全確認を行っている。チェック表や記録に残し職員間で共有している。	○	現状を維持していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各利用者の出来る能力に応じ、心身の状態を見逃さず、職員が見守りの上使用している。定期的にチェックし記録している。	○	現状を維持していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハットや事故報告書に記録し、カンファレンスで対策を検討し防ぐための知識を学び、安心した生活が出来るよう事故防止に取り組んでいる。	○	現状を維持していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救命講習に参加し応急手当や初期対応を学んでいる。また、急変時のマニュアルを作成し掲示している。	○	新しい職員への指導の強化を徹底したい。急変時に対して全職員が常に頭の中でシュミレーションを行ってほしい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2か月ごとに状況に応じた出入り口や避難経路を確認し、利用者と共に訓練している。地域の防災会にも加入している。	○	現状の手順書の遵守や地域住民の支援が得られるよう交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	サービス計画書と共に、起こりうるリスクについても家族に説明し話し合っている。	○	家族とのコミュニケーションを大切にし、リスクに対する理解を深めていただける工夫をしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定や体調の観察等で変化の早期発見に努め、異変時には朝・夕の申し送りにて報告、伝達を行い、必要時には看護師に報告し指示を仰いでいる。	○	現状を維持していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用しているリストを作り、副作用などを理解して支援している。	○	新しい職員にも薬の大切さを伝え、周知・徹底に努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容や水分摂取量などを把握し、毎日ラジオ体操を行うなど身体を動かすような支援をしている。	○	現状を維持していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの出来る能力に応じた口腔ケアの支援をしている。	○	現状を維持していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量を記録し、それぞれに合った食事形態を提供している。	○	現状を維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルを作成し、見やすいところに掲示している。利用者・職員・面会者共に手洗い・うがい・消毒を徹底し、予防に努めています。	○	現状を維持していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒マニュアルを設置し、定期的な食材管理・調理器具の消毒を行い衛生管理に努めている。	○	現状を維持していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲に花や植木を植え、明るく広々とした入り口になっている。（今年はひまわりが大きく成長した）	○	現状を維持していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節感のある絵や作品を入居者と共に作り飾っている。トイレや浴室は危険のないよう整理し、清潔感のある空間になっている。	○	現状を維持していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を利用者の状態を配慮し自由に過ごせるよう工夫している。	○	現状を維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、タンスや机など使い 慣れた家具を持ち込んでいただいている。	○	現状を維持していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を利用し、外気温との差が大き くならないよう配慮している。また、こまめに換 気ができるよう工夫している。	○	現状を維持していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	廊下やトイレ等は手すりだけでなく充分な広さ を取っており、身体機能を維持できるよう、車 椅子でも自由に往来できるよう配慮している。	○	現状を維持していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように 工夫している	トイレへの案内表示など一人ひとりの分 かる力に応じて混乱を防ぐよう工夫している。	○	現状を維持していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活か している	広いベランダを利用してバーベキュー をしたり気候のよい日にはティー タイムを楽しみ、また、洗濯 や布団を利用者と一緒に干したり して活かしている。	○	現状を維持していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

夏祭りや季節ごとの行事を多く取り入れ、利用者の喜ぶ姿がたくさん見られるよう職員一丸となって取り組んでいる。
環境の整備に取り組み、いやな臭いがしないよう工夫しています。